

## 問

以下の文章を読んで、次の問に答えなさい。

厚生労働省は、大規模災害の発生時に避難所で過ごす高齢者に対して理学療法士や作業療法士が行うリハビリの体制を強化する。1月に発生した能登半島地震では避難所での生活が長引いたことで寝たきりなど要介護状態が懸念されるケースもあった。避難生活による健康状態の悪化を未然に防ぐことで社会保障費の抑制にもつなげる。

日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)を通じて、災害時に被災地で活動する理学療法士や作業療法士の事前登録を進める。あらかじめ登録することで大規模災害が起きた際に迅速に人材を派遣できるようにする。

能登半島地震では、全国からリハビリの専門人材 900人以上が集まり支援にあたった。現地のニーズとのマッチングが課題となったことから、厚労省は都道府県や被災地の関係団体との調整機能を強化する。災害時に備えた研修や訓練も実施し、対応力の底上げも図る。

厚労省は、2025年度予算案に 3900万円を計上した。担当者は「能登半島地震で被災者の健康維持のためリハビリが果たす重要性が明らかになった。今後の災害での迅速な支援につなげたい」としている。

厚労省、避難所で高齢者リハビリ支援 健康悪化を予防（日本経済新聞 2024年12月29日）  
利用許諾番号(No.001797)

問Ⅰ

下線部について、避難所での生活が長引いたことで寝たきりなど要介護状態が懸念される、とあるが、高齢者の場合、どのようなことが健康状態を崩すと考えられるか、100字以内で述べなさい。

問Ⅱ

問Ⅰで考えた高齢者が避難所で崩しがちな健康状態を、未然に防ぐために、どのようなことを行った方がいいと考えられるか、100字以内で述べなさい。

問Ⅲ

自分が将来目指す作業療法士像について、300字以内で自由に述べなさい。